

福祉だより

上豊富地区
福祉推進協議会
H31. 3月発行

「紫豊館との交流を通して」



上豊富小学校

校長 桐村 恵美

本校では、四年生が「総合的な学習の時間」に「地域を探る」をテーマに二つの学習に取り組んでいます。一つは「豊富池」の成り立ちや様子について、もう一つは「地域にある高齢者のための施設とそこにおられる人々について」です。特に、「紫豊館」の皆様の協力を得て、施設見学、入所されている高齢者の方とのふれあい、施設で働いておられる方による出前授業などは、京都府の進める「次世代の担い手育成事業」の取組としても進めています。ねらいは、将来の社会を担う子どもたちが授業を通して福祉の現場を知り、高齢者の様子や仕事について理解を深め、学習したことを発表することを通してチームで協力する力を育成するということです。この事業を福知山市

で取り組んでいるのは、本校のみです。子どもたちの学習の様子を見てみると、入所者の方との交流では、一回目は自分たちで考えたゲームなどをしましたが、二回目は、入所者の方の様子を理解した上で、皆さんに楽しんでいただけるものにしようという相手意識をもった取組に変わっていききました。先日の出前授業では、認知症の方への正しい理解や接し方などを教えていただきました。2060年には人口の約4割が65歳以上の高齢者になると推計されています。小学校で、このような学習をさせていただくことは、子どもたちにとっても大変貴重で、意義深いことだと感謝しております。これからも、次世代の担い手としての学習を大事にしていきたいと思っています。地域の皆様、よろしくお願いいたします。



赤ちゃん訪問

民生児童委員 加藤 吉伸

民生児童委員として初めて赤ちゃん訪問をさせていただきました。市の職員の

方と、主任児童委員と共に、生後三ヶ月頃の赤ちゃんのいるご家庭に、お祝いの品と子育てガイドブックを届けさせていただきました。

訪問先のお母さんは、すでに上に子供さんがいらっしやることもあり、市の職員の方の質問にしっかりと答えている姿には、ベテランお母さんのたくましさを感じました。ご家族の構成、上の子供さんの赤ちゃんへの接し方など、いろいろと話していただき、ただ感心するばかりでした。

昨今、少子高齢化が進んでいますが、私の担当地域では子供の数が多く、元気で明るい子供たちの声がたくさん聞こえてきます。一方、ニュース等では、子供たちの悲惨な事件が放送され心痛むことも多いです。

子供たちの健やかな成長を願い、見守り活動やいろいろなつながりを大切にして、子供たちがのびのび活動できる住みやすい地域づくりができればと思います。



「まいづる福祉会」を視察して

民生児童委員 足立一重

去る十一月二十九日、豊富民生児童委員協議会では舞鶴の福祉施設の視察研修を実施しました。

成和地区包括支援センター長の古田泰也様と共に、豊富民児協二十一名、計二十二名の参加でした。

訪問先は、まいづる福祉会が運営する「まいづる作業所」（平地区の小学校跡地）と、「カフェレストランほのぼの屋」（おーべるじゅ・ど・ぼの）でした。まいづる作業所では施設長の泉伸也様より、「まいづる福祉会」につい

ての説明を伺いまし

た。「働きたい・友達がほしい」これは多くの障害者が持っている最も切実な願いである事。そして、それは全ての人にとっても欠かす事の出来ない大切な事であると感じました・・・「人権の尊重」

障害者の生活と権利を守っていくと共に、少しでも安定的な所得保障の実現を



目指していく事を強調されました。その理念を元に運営されている作業所では作品製作の様子、また出来上がった作品や即売の様子等を見学しました。

次に向かった「カフェレストランほのぼの屋」は、舞鶴湾の絶景を望む丘の上に在り、本格的なフレンチレストランとして、オープンより四年で六万人を超すお客様に食事を提供されています。また、五〇組以上のカップルのブライダルセレモニーやウェディングパーティ等、市民のだれもが利用できる施設になっていきます。障害者も生き生きと働ける職場としての実現に向けて活動されています。

午後からは引揚記念館を見学しました。ビデオ鑑賞、引き揚げや抑留の状況等の語り部による説明を聴きました。その場に立つと、まるで目の前の出来事のように思えて心が痛みました。

今回の視察研修により、私達の意識向上の必要性を改めて感じた大変有意義な一日であったと思います。



福祉を考える前に

民生児童委員 平出 彰靖

昨年の九月「ふくちやま次世代交流ウィークショップ」の募集に応募し、ほぼ一日参加してみた。

無作為に抽選しましたというだけあって知っている人は誰もいない。市と公立大学、龍谷大学が提携して、五人程度のグループ分けがされ午前、午後と福知山の良い所を探してみる等、会話は結構弾んだ。二十代前半、五十代、六十代と私たちのグループは三世代に渡っていて、二十代の若者たちが「福知山の素晴らしさ」を取り上げることに驚かされた。「出生率の高さ」を非常に多く挙げていた。この集いを肯定的な社会活動に結びつきたいのだろうという意図は感じたが、何よりも、日常では出会いもしない人々とふれあうことが非常に心地よい刺激で衝撃を覚えた。

地域社会のつながりも先入観にとらわれず互いの立場、生き方の違いを「前向き」に「新しい世界観」と捉え、行き詰まる現実を打ち壊してゆく手がかりに行動していきたい。明るい未来を信じて。

